

JST 理事長 記者説明会

令和3年 9月 17日



科学技術振興機構

第1回 羽ばたく女性研究者賞 (マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞)



科学技術振興機構

羽ばたく女性研究者賞(マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞)

趣旨

日本の若手女性研究者(20歳台後半～30歳台前半)が困難を乗り越えより活躍することを目的に、駐日ポーランド大使館との共催により、国際的に活躍が期待される若手女性研究者の表彰制度を創設します。

なお、日本電子株式会社(JEOL)の協賛により、賞金100万円をご提供いただきます。また、ポーランド大使館およびポーランド科学アカデミー(Polish Academy of Sciences)により、最優秀賞の副賞として、ポーランド研究機関へのstudy visitへのご支援をいただきます。

対象者 (自薦/他薦ともに可)

- 2022年4月1日時点で博士学位取得後5年程度までの女性研究者(ポスドクを含む)、大学院生(博士後期課程)、及びこれらに相当する者(ライフイベント等による研究活動休止期間を勘案する。)
- 国籍:日本国籍、居所:不問

賞・副賞

最優秀賞1名(賞金50万円) 奨励賞2名(賞金各25万円)
※最優秀賞にはstudy visit 支援あり

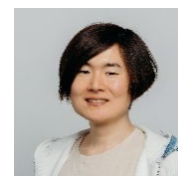
スケジュール

- 応募期間** 2021年10月1日～12月13日 日本時間正午
- 選考** 2021年12月下旬～2022年3月上旬
- 受賞者発表・表彰式** 2022年5月(予定)
(表彰式はポーランド大使館主催により実施)

■ 選考委員(敬称略、委員長を除き五十音順)



岩崎 明子(委員長)
イエール大学 Professor of Immunobiology, Waldemar Von Zedtwitz 免疫学 冠教授
ハーワードヒューズ医学研究所正研究員



岩尾 エマはるか
Google Cloud
デベロッパーアドボケイト



大栗 博司
東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長
カリフォルニア工科大学フレッド・カブリ冠教授、理論物理学研究所所長



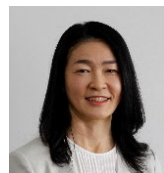
小谷 元子
東北大学理事・副学長(研究担当)、理学研究科数学専攻 教授



染谷 隆夫
東京大学大学院工学系研究科長・教授
理化学研究所 主任研究員・チームリーダー



沼田 圭司
京都大学大学院工学研究科 教授
理化学研究所環境資源科学研究センター チームリーダー



原田 尚美
海洋研究開発機構 地球環境部門 部門長



日比谷 潤子
聖心女子学院 常務理事
国際基督教大学 名誉教授



Tomasz M. Rutkowski
理化学研究所 革新知能統合研究センター 研究員
東京大学 リサーチフェロー

岩崎明子選考委員長 プロフィール



イエール大学 Professor of Immunobiology、
Waldemar Von Zedtwitz 免疫学 冠教授
ハワードヒューズ医学研究所 正研究員

1998年にトロント大学で免疫学の博士号を取得し、米国国立衛生研究所でのポスドクを経て、2000年に現職に就任。

バローズ・ウェルカム基金生物医学キャリア賞、ワイス・レダール若手研究者賞、バローズ・ウェルカム基金感染症病態研究者賞、米国免疫学協会功労者賞など受賞多数。
2018年に米国科学アカデミー、2019年に米国医学アカデミー、2020年に米国微生物学アカデミー、2021年に米国芸術科学アカデミーの会員に選出。

現在、研究・科学コミュニケーション・公共サービスに関して、COVID-19パンデミックの最前線に立っている。数多くのメディアで専門家としての見解が引用されており、新型コロナパンデミックの際に信頼すべき50人のトップ専門家の一人とされているほか、ニューズウィーク日本版では、世界で最も尊敬される日本人100人の一人に選ばれている。科学や医学の分野で活躍する女性や少数派の人々に対して講演などを積極的に行い、ソーシャルメディアには多くのフォロワーを抱えている。

岩崎委員長－濱口理事長対談1 (動画あり)

(マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞)

羽ばたく女性研究者賞の創設にあたり

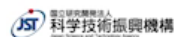
2021年7月28日収録

岩崎 明子

イェール大学 Professor of Immunobiology
Waldemar Von Zedtwitz 免疫学 冠教授
ハーワードヒューズ医学研究所 (HHMI) 正研究員

濱口 道成

国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長



URL : <https://www.youtube.com/watch?v=MvzeSgD7OyE>

対談1の概要ー羽ばたく女性研究者賞創設にあたり

1. ライフイベントで困難を抱える若手女性研究者が国際的に活躍できるよう奨励することを目的に、ポーランド大使館と共催で本賞を創設する。
2. (岩崎委員長)何か大きな仕事をするには日本にいても限界を感じた、高校を中退して単身でカナダに留学、大学4年でとった免疫学の授業に惹きつけられ、大学院ではその教授の研究室で働いた。免疫細胞の働きを調べるうちに人の命を救うワクチン研究の大切さや面白さを知った。子供が小さい時には、何度も辞めようと思う困難があった。
3. 米国やカナダでもまだ男女平等ではなく、女性が研究を続けるにはもっと支援が求められる。日本で、女性研究者が不安定な立場に置かれることなく、教授になる道が見えるようにすることが必要。
4. 女性研究者にはロールモデルの存在とメンターシップが重要。困難な時に、女性メンターに相談して助けられることが必要。

岩崎委員長-濱口理事長対談2 (動画あり)

新型コロナウイルス研究

岩崎 明子

イェール大学 Professor of Immunobiology
Waldemar Von Zedtwitz 免疫学 冠教授
ハワードヒューズ医学研究所 (HHMI) 正研究員

濱口 道成

国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency



ダイバーシティ推進
JST Diversity and Inclusiveness



デルタの株はすごく感染が早いので、80から90%の人がワクチンを打っていないと、

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=vB5FrWQ6frs>

対談2の概要ー新型コロナウイルスについて

1. 新型コロナウイルスは、症状の程度、ウイルス排出時期、感染臓器、後遺症などが幅広く多様なところに特徴がある。
2. コロナワクチンは全世界には行き渡っておらず、安価な特効薬がない今、いろいろな変異株が出現し、今年中に収束することは難しい。新興国を含めた世界中にいかに早くワクチンが行き渡るかが収束の鍵となる。デルタ株は感染が早いので、集団免疫獲得には80-90%の接種率が必要。
3. 一人ひとりがウイルスとワクチンを正しく理解した上で接種してもらえるよう、科学者が積極的に市民に情報発信する必要がある。
4. 重症者においては免疫の暴走が起きているが、ステロイド投与で重症度を下げることはできない。重症化しやすい人の特徴としては、基礎疾患の方、高齢者と男性。男性はT細胞の活性化ができずに重症化しやすい、免疫だけを見ると、女性が有利。メカニズムはまだ不明だが、ホルモンやX遺伝子にファクターがあると考えられる。

羽ばたく 女性研究者賞

マリア・スクウォドフスカ・キュリー賞



応募要項、応募フォームは先行公開中です。

「羽ばたく女性研究者賞」ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/diversity/researcher/mscaward/>

➤ お問い合わせ先

JST ダイバーシティ推進室

電話: 03-5214-8443 メール: diversity@jst.go.jp

2021年10月10日(日)～11日(月)

11月 3日(水・祝)～7日(日)

サイエンスアゴラ2021 について

2021年9月17日

「科学と社会」推進部



科学技術振興機構

サイエンスアゴラ2021について

開催期間 プレアゴラ:10月10日(日)・11日(月)
サイエンスアゴラ:11月3日(水・祝)～7日(日)
※2021年デジタルの日には**デジタルに関連する企画**を実施

開催方式 オンライン(Zoomウェビナー、Zoomミーティング、一部YouTube配信あり)

テーマ Dialogue for Life

協賛 旭化成株式会社、エルゼビア・ジャパン株式会社、株式会社学研ホールディングス、日本電気株式会社、日本電信電話株式会社、Wiley(五十音順)

特別協力 在日スイス大使館(プレアゴラ、サイエンスアゴラの両方に出演)

後援 内閣府、外務省、文部科学省、経済産業省、日本学術会議、ほか



	2020	2021
会期	プレアゴラ2日間、サイエンスアゴラ8日間(連続10日)	プレアゴラ2日間(約1ヶ月前)、サイエンスアゴラ5日間(計7日)
規模	102企画(来場者10,574人)	104企画
主目的	科学技術に関する 社会的期待を拾い上げ 研究開発の現場に届ける	

プレアゴラについて



10月10日、11日の「2021年デジタルの日」にあわせてデジタルに関連する7企画を実施

【主催者企画】ワークショップ:未来のマーク作りで考える2050年
(博報堂アイ・スタジオ、JSTサイエンスアゴラ事務局)

【特別協力企画】ディープフェイク、人間の脳を欺くハイテク・イリュージョン
ースイスの科学(チューリッヒ大学、スイス大使館科学技術部)

【連携企画】サイバー万博の役割 ーデジタル空間におけるアクションの創出についてー (2025年日本国際博覧会協会)

など、2日間で合計7企画を実施

日本科学未来館でも科学コミュニケーター(SC)によるデジタルの日関連イベントを実施
※リアル開催のみ

【科学コミュニケーター・トーク(「2021年デジタルの日」特別編)】

10月10日・11日 IoTって知ってる? モノとモノがつながるスマート社会

10月10日 選択アシスタントの憂鬱

【SCによる体験ツアー】

10月11日 インターネット物理モデル(常設展示)

第46回井上春成賞 贈呈式・受賞講演

令和3年9月17日(金)

於 国立研究開発法人科学技術振興機構東京本部B1大会議室

いのうえはるしげしょう
井上春成賞

「井上春成賞」は、科学技術振興機構の前身の一つである新技術開発事業団の初代理事長で、工業技術庁初代長官 井上春成氏がわが国科学技術の発展に貢献された業績に鑑み、同団創立15周年を記念して昭和51年(1976年)に創設された賞です。

大学、研究機関等の独創的な研究成果をもとにして企業が開発、企業化した技術であって、わが国科学技術の進展に寄与し、経済の発展、福祉の向上に貢献したものの中から特に優れたものについて研究者および企業を表彰いたします。

井上春成賞 概要

1. 設立 : 1976年第1回開催 (2021年:第46回)
2. 募集期間 : 例年12月下旬～翌年2月末
3. 表彰件数 : 原則として2件 (これまでにのべ100件200名) (2021年9月17日現在)
4. 受賞者 : 原則として、表彰対象技術毎の研究者1名、および企業1社
5. 表彰式 : 例年7月中旬 於 日本工業倶楽部会館(予定)
6. 賞の内容 : 表彰状・賞牌 研究者に研究奨励金 100万円



第44回井上春成賞贈呈式【令和元年7月18日(木)】

第46回 井上春成賞

[受賞]

- 「骨組成(炭酸アパタイト)人工骨」

研究者：石川 邦夫 九州大学 大学院歯学研究院 教授

開発企業：株式会社ジーシー

代表取締役社長 中尾 潔貴

- 「温熱生理学に基づく温冷感推定技術の開発」

研究者：久保 博子 奈良女子大学 研究院工学系工学領域 教授

開発企業：パナソニック株式会社 インダストリアルソリューションズ社

社長 坂本 真治

本日の講演者



石川 邦夫

●石川 邦夫（九州大学 大学院歯学研究院・教授）

「骨組成（炭酸アパタイト）人工骨」研究者

1984年大阪大学工学部卒業。1986年大阪大学大学院前期課程修了。1986年東レ(株)入社(開発研究所)。1988年徳島大学歯学部助手。1990年工学博士(大阪大学)。1990年ペンシルバニア大学客員研究員。1991年米国国立衛生研究所客員研究員。1997年岡山大学歯学部助教授。2001年九州大学大学院歯学研究院教授(現職)。

2001年～文部科学省 科学技術政策研究所 専門調査員。2002年～日本歯科理工学会理事。2008年～日本バイオマテリアル学会理事。2019年～International Society for Ceramics in Medicine, President



久保 博子

●久保 博子（奈良女子大学 研究院工学系工学領域・教授）

「温熱生理学に基づく温冷感推定技術の開発」研究者

1984年奈良女子大学大学院家政学研究科修了。1986年奈良女子大学家政学部助手。1997年奈良女子大学生活環境学部助教授。2014年奈良女子大学生活環境学部教授。

学位：博士（学術） 専門分野：建築環境工学、人間工学、住居学

学会活動：日本建築学会、空気調和・衛生工学会、人間-生活環境学会等所属。2019年～日本家政学会 住居部会 部会長。2020年～日本人間工学会 関西支部長。